

本誓寺 門徒会通信

第1号

発行責任者
白崎 英旦

○発刊のお知らせ○

東日本大震災以降、絆と言う言葉をよく目や耳にするようになってきました。人は一人では生きてはいけない、絆の最小単位は家族であるとありますが、その絆が壊れようとしています。それは日本の社会が未だかつて経験した事のない、核家族社会という現代の悩める構造がもたらした結果で御座います。

かつて、朝、家族が御仏壇の前でお念仏を唱え、それから朝ごはんを食べる、といった光景はどこかの家庭でも見られたものでした。親子がお互いを愛し寄りあい、そして御先祖様を敬い、日本人としての誇りを持ち生きていた時代、御仏壇には御先祖様がいて子孫との間に絆が御座いました。

そして、お寺は絆の殿堂であり、私達の心の拠り所でも御座いました。

私達は門徒通信を通して多くの方々の御意見をお聞きし、門徒と門徒の絆が出来る事を願い、ここに門徒会通信を発行することと致しました。

本誓寺を正常化する門徒の会
会長 白崎 英旦

○門徒総会報告○

十一月二十五日、第二回門徒総会が開催されました。総会には住職、候補衆徒、副住職にも出席をお願い致しましたが、候補衆徒吉田明様のみが参加し、御門徒様からのご質問に答えて頂きました。今回の総会で八月二十五日に開催された総会での五百一名による決議を踏まえ、門徒条例に則り総代候補者が民主的に決定されました。責任役員を選出の後、総代、責任役員届を十二月中に本山の宗務総長宛提出する予定です。また、事務所備え付け書類開示拒否に対し、本誓寺を正常化する門徒の会(当会)会長 白崎英旦、副会長 平野潤、小笠原孝祐の三名が原告となり、盛岡地方裁判所に提訴することが決議されました(訴状文については、総会に出席あるいは委任状を出された御門徒様に送付致します)。

○お寺側の現状説明会について○

十一月十七、十八、二十四、二十五日の四日間計八回にわたり、平成二十二年度以降の維持費を納入した御門徒様のみを対象にお寺側からの現状説明会が開催されました。何十年にもわたり毎年維持費を納入した方を無視し、現在の本誓寺が混乱した状況において維持費納入について保留している御門徒様が沢山いる現状を考えた場合、維持費

納入の如何にかかわらず全門徒に通知をするべきであったと思えます。当会から再三にわたり、門徒総会や少なくとも集会の開催を求めてまいりましたが、現在まで行われてこなかったという経緯を考えた場合、非常に不可解かつ不透明な感を持つところです。

現お寺側の役員と称する方々(四月三十日にて任期は切れております)には、「門徒お一人の重み」と「盛岡地裁判決の重み」、また「候補衆徒の地位の重み」を認識して頂き、当会に対する誹謗中傷や候補衆徒吉田明様への精神的批判に終始するような言動は慎むよう願わざるを得ません。

○候補衆徒だより○

檀家と門徒の違いについて

その昔、お釈迦様は家々を訪れ法を説き、その尊い教えに感動し、

本当の自分の心に目覚めた多くの人々が苦しみから救われました。

その感謝の心から自然にでてきた笑顔やご飯やお金を布施として釈尊に差し上げた家をダーナ・檀家

といいます。ですから檀家はもともと寺に布施をする人々の家のことです。やがて檀家は仏の教えを

伝える菩提寺や僧侶に布施をする個人をさすようになりました。

門徒とは、親鸞聖人が説かれた

教えを聞く一門の信徒という意味

です。門徒は同じ念仏の教えを聞くなかま、御同朋御同行として菩提寺やその僧侶を精神的、経済的に支える人々をさすようになりました。お釈迦様の時代と同じように真宗門徒は、親鸞聖人の教えによつて阿弥陀如来のお念仏のこころによる救いを聞き、苦しみから救われ喜んできた歴史があります。

もともと、門徒も檀家の人々も、生まれたときはともに未熟な人間です。だからどちらも生きていくうちに仏の教えを聞いて成熟した人間になれるように、それぞれの方法で、それぞれの道を歩んできました。人間を成就する道を歩んでいるわれらは時代を超えて、いまお釈迦様の直説法に集う仏弟子(仏法を喜んだ人々)となつていくのでしよう。

候補衆徒 吉田明 合掌
(☎)〇一九・六二四・〇三二一

○お知らせ○

御意見、御質問、御要望がある方は、ファックス 019-662-7331 または、メール oga-koke@diamond.broba.cc 宛御連絡下さい。
門徒のお一人がホームページ <http://www.yonakuninet/honseiji> を開設しましたので御紹介させていただきます。